

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立開成小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としています。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成27年4月21日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

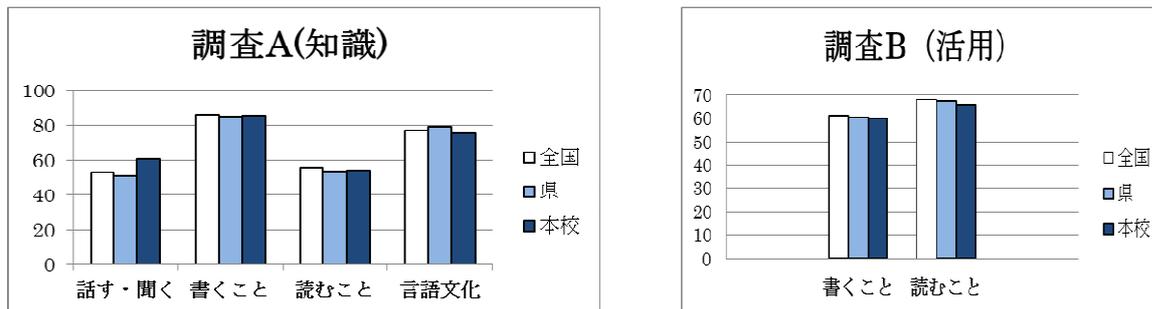
全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国・県正答率との比較



調査A(知識)・B(活用)共に前年度より改善が見られた。全体では、全国平均とほぼ同じである。調査A(知識)では、話すこと・聞くことの領域で、全国を7%、佐賀県を10%上回っている。調査B(活用)では、読むことの領域で、全国を2%、佐賀県を1%下回っている。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・話しの内容に対する聞き方を工夫する問題では、全国を7.7%、佐賀県を9.8%上回っている。

書く

・目的や意図に応じ、新聞に割り付けをしたり記事に見出しをつけたりする問題や、取材した内容を整理しながら記事を書く問題では、全国や県を2~3%上回っている。しかし、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えたり、文章と図とを関連付けて自分の考えを書いたりする問題では、全国や県を3~4%下回っている。問題の提示条件を正しく掴み、条件に即して自分の考えを書く力をつける指導を行ってきているが、加えて文章の要旨を掴む練習を行う必要がある。

読む

・登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する問題では、正答率が60.7%と全国、県と比較して5~6%低い。設問の意図を読み取り自分の考えをまとめる力を身につける必要がある。

言語事項

・漢字の読み書きでは、読む方が書く方よりできている。文中の主語や主語と述語の関係など、文のきまりについても全国や県の正答率を上回っている。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 読み聞かせ活動を毎週月曜日に位置づけ、目標冊数の設定や図書館祭りなどを行い、本に親しむ児童の育成を目指しています。
- 日々の授業やさまざまな行事の際に、自分の考えを表現したり意見交流したりする場を数多く設定し、目的や意図に応じた話す力の習得を目指します。
- デジタル教材や書画カメラを活用して視覚的にわかりやすい授業を仕組み、漢字ショートテストやプリントなどを使って漢字や言葉の決まりなどのつまづきを把握し、その定着に努めます。

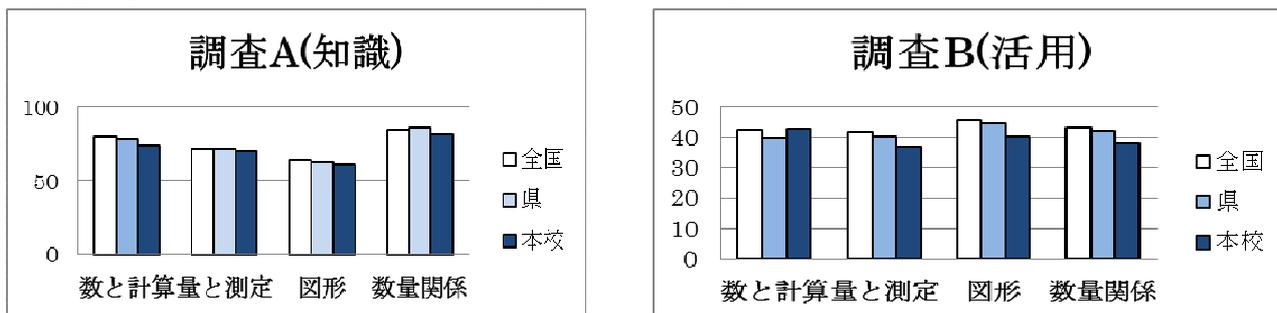
【ご家庭では】

- 音読は、読み方の工夫だけでなく、登場人物の気持ちの変化や著者が伝えたいことなどを考えながら読む学習に取り組んでみましょう。これは、読解力や語彙力の向上にも役立つでしょう。
- 問題の中には、新聞を題材にした問題が出題されました。記事などを読んだり、割り付けや見出しなどを意識して見たりする機会などがあるとよいと思います。また、日頃の生活の中で、目を見て話を聞くことや、主述を考えながら話すことなども意識してほしい点です。

2 算数

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問う調査A、活用力を問う調査Bともに、調査Bの数と計算を除いて佐賀県平均・全国平均を下回っている。領域ごとの正答率を見てみると、調査Aの数と計算、調査Bの量と測定領域、図形領域・数量関係の領域の問題が、全国に対して、5%から6%程低くなっている。

(2) 成果と課題

数と計算

・小数の減法、異分母の分数の減法、除数が整数である分数の除法など、基本的な計算問題ができていない。全国や県と比較して10%以上低い。無回答率について調査Aでは、1～2%とよく解答している。調査Bで20%と高い問題が13問中3問に見られる。今後、記述式の問題に取り組んでいくことが必要である。

量と測定

・分度器の目盛りを読む基本的問題では、全国や県を3%程上回っている。一方、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述する問題では、全国平均を6%程下回っている。問題の意図を正確に読み取るような手立てをたてていくことが必要である。

図形

・作図に用いられる平行四辺形の特徴を選ぶ問題では、全国を11%程下回っている。合同な二つの三角形をつくったときに、角度が30度になる理由を書く問題では、全国平均を10%程下回った。

数量関係

・式で表現された数量の関係を図と関連づけて理解する問題では、9割近くができています。示された式の中から誤りを見つけ、正しい求め方と答えを記述する問題は、全国平均を下回っている。問題を正確に読み取り尋ねられていることが何か、どのように式を立てて解いていくか、考える力をつけていく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 計算力向上に向け、朝のスキルタイムで取り組みます。1～4年生は、基礎・基本の四則計算の定着をめざしスキルタイムプリントを行います。5～6年生は「佐賀すくすくテスト」を活用し、基本的な計算力の確実な定着をめざします。
- 授業では、児童が考えを検討するための視点「算数の合い言葉」(のんたん・〇つも使える・せいかく・はや〇)を問題解決学習に生かしています。ノート指導では、板書の学習過程文字(◎あて・④んだい・④とおし等)を用いて、学習の流れがわかる授業展開を心掛けます。
- 自分の考えや考えた過程を記述する問題の正答率が低いことを受け、友だちと考えや意見を交換し合う場を設定し、学び合いに力を入れます。
- 3年生以上で実施している「九九テスト」では、TT・少人数担当が中心となって、個別に支援しながら全員合格となるよう努めます。

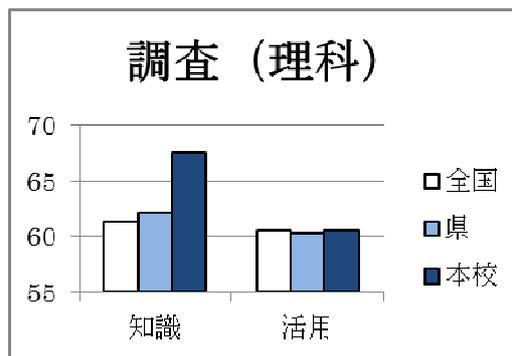
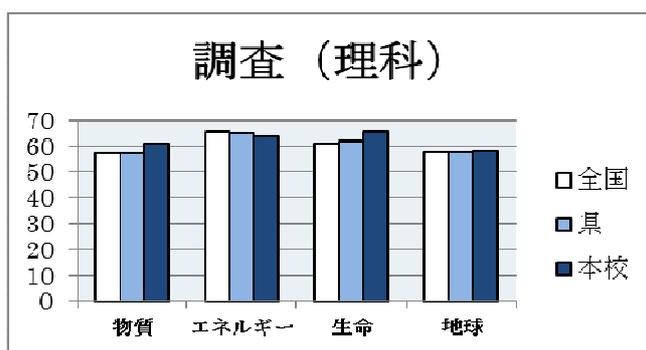
【ご家庭では】

- 家庭学習として担任より、計算ドリルや算数プリントが出されています。また、単元ごとにテストも行われています。お子さんが何を学習されているか、理解できているか、時々見てあげましょう。家族の温かい見守りと励ましの言葉は、何よりの意欲付けになります。
- 算数は、習った内容が身近な生活に役立つものです。普段の会話の中から、親子で役立つ算数を見つけましょう。ちょっと意識するだけで、算数好きになるきっかけができるはずです。

3 理科

(1) 結果

全国・県正答率との比較



「エネルギー」に関する問題は、全国平均をやや下回っていたが、その他の問題は、全国平均を上回った。また、主として「知識」に関する問題の正答率も全国平均を上回っている。

(2) 成果と課題

A区分 物質

・メスシリンダーを使って一定量の水をはかり取る問題の正答率は高く、器具の適切な操作の仕方を理解しているといえる。

A区分 エネルギー

・振り子時計の軸に用いる適切な金属を選び、選んだわけを書く問題の誤答が多かった。表やグラフをもとに考察し、分析した内容を適切に表現するよう指導する必要がある。

B区分 生命

- ・メダカの雌雄を見分ける問題は正答率が高く、興味・関心を持って、飼育したり観察したりすることができている結果であると考えられる。
- ・植物の適切な栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を考えて理由を記述する問題で、誤答が目立った。観察をさせるときは、理由を書かせたり、説明させたりする必要がある。

B区分 地球

・星座の動きを捉える問題や水が水蒸気になる問題の正答率は高かった。科学的な言葉や言葉の意味を理解しているといえる。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 実験結果から結論を導く際は、データをまとめた表やグラフなどから、多面的に考えさせるようにします。根拠や理由を示しながら、自分の考えを記述させたり、話し合わせたりするなど、言語活動を充実させます。
- 実験や観察をして分かったことを、実際の自然や生活の中で使われている道具と関連付けるなどさせて、日常生活に当てはめて考えさせるようにします。

【ご家庭では】

- 今回、「時間が遅れがちな振り子時計は、どうしたら調整できるかな」「ふっとうしたお湯に紅茶の葉を入れると茶葉はなぜ動くのかな」など生活場面と関連付けて考えさせる問題が多く出題されました。お子さんが科学や自然について疑問を持ち、その疑問について質問したり調べたりするときには、ぜひお子さんといっしょに考えたり、調べたりしてください。
- 植物を育てたり、理科に関係のある番組と一緒に観たりして、自然や科学に目を向けさせる機会を多く持たせてください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》	調査項目	本校%	県%	全国%
	朝食を毎日食べていますか。	85.4	87.0	87.6
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(どちらかといえばしているも含む)	46.1	40.6	39.2
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。(どちらかといえばしているも含む)	66.3	62.4	60.0
	平日2時間以上テレビを見る。	52.8	58.8	59.2
	平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	26.9	27.2	30.2
	平日読書を30分以上している。	39.3	38.3	37.7

前年と比較して、朝食を食べる割合が8%改善している。逆に、起床時間で18%、就寝時間で20%下がっている。全国や県の平均より本校の実態は上回っているが、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを継続していくことは大切である。規則正しい生活習慣の確立は、健康な生活を送るうえで重要である。

テレビやゲームについても、前年度より改善している。一日4時間以上している児童は、控えさせたい。

読書については、約40%の児童が30分以上読書をしている。反面、10分未満とほとんど読書の習慣が身につけていない児童が約40%と多い。今後、「家読」を推奨し、読書習慣の形成を進めたい。

《家庭学習の様子》	調査の項目	本校%	県%	全国%
	平日2時間以上勉強している。	10.1	20.7	25.7
	平日1～2時間勉強している。	23.6	39.0	37.0
	平日0～1時間勉強している。	66.3	40.3	37.2
	家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	91.0	96.5	96.8

学習時間は、全国の状況や県の状況と比べて明らかに短い傾向が見られる。また、宿題に関して、5%程ではあるが低いので、家庭と協力しながら継続して家庭学習の習慣を身につけさせていきたい。

《学校生活の様子》	調査の項目	本校%	県%	全国%
	学校に行くのは楽しいと思いますか。(どちらかといえばしているも含む)	79.7	86.2	87.0
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。(どちらかといえばしているも含む)	86.5	93.2	93.9
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。()	93.3	96.4	96.2
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。(どちらかといえばしているも含む)	88.7	94.0	93.7

本校では、「心の教育」を中心に自己肯定感の向上や人権意識の向上に取り組んでいる。前年度と比較して「学校に行く」「人の気持ち」の質問項目で低くなっている。また、全国や県と比較しても低くなっているため、児童が前向きに生活していけるよう職員一丸となり、取り組んでいきたい。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。授業で学習した基本的な内容や必ず身に付けておきたい内容を課題として取り組ませます。
- 学習規律の定着にも力を注いでいます。学習に関して、基本的な事柄（持ち物・学習の仕方・姿勢・鉛筆の持ち方等）をカードを教室に掲示し、継続して意識付けを図ります。
- 教室の環境整備に努めていきます。掲示物など刺激になりやすいものは、整理して掲示し、児童の集中力を高めていきます。学習環境のユニバーサルデザイン化を進めていきます。

【ご家庭では】

- 家庭学習の習慣をつけていきましょう。宿題や自主的な学習、翌日の学習道具の準備などに自分から取り組めるようご家族の協力をお願いします。
- 家庭学習の時間帯、テレビやゲームなど音が出るものや気が散るものは、学習の妨げとなります。家族の協力が必要になります。静かな環境で学習に取り組めるようご家族の協力をお願いします。